

“ 枠にとらわれない融合・連携が、地域の研究力を高めていく。 ”

大学院医学系研究科准教授 神経遺伝情報学

## 大河原 美静 准教授

OKAWARA, Bisei



### 若手研究者が主導する、分野・機関を越えた交流の場

NAGOYAグローバルリトリートは、本学を中心に地域の機関と合同で実施している若手研究者による研究発表会です。1泊2日の合宿形式で、ポスターセッションや英語での口頭発表、著名研究者の特別講演のほか研究者同士の交流会などが開催され、毎年約200名が参加しています。もとは2008年度採択のグローバルCOEプログラム※1「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」によって創設されたもので、充実したプログラムが好評を博し、2017年に第10回を迎えることができました。

本リトリートは創設時から、大学・研究機関の枠を越えた共同研究の推進、基礎と臨床分野の融合研究の促進、広い視野を持つ若手研究者の育成を目的としてきました。当初は本研究科、本学の環境医学研究所、愛知県がんセンター、国立長寿医療研究センターによって実施してきましたが、回を重ねるごとに参加機関が増え、現在は自然科学研究機構生理学研究所、愛知県心身障害者コロニーも加わった広いネットワークのもと展開しています。研究分野に関しては、基礎から臨床まで幅広い医学領域の研究者が参加する集まりとなっていることも特長です。医学部以外からの参加者も見られ、興味のある方には門戸を開いています。また、実行委員会は大学院生や留学生、臨床の医師などバラエティに富んだ国際色豊かなメンバーから成り、主に20代後半から30代の若手研究者が企画から当日の進行まで、運営のすべてを担っていることで、多様性にあふれたプログラムを実現しています。

### 異分野交流による出会いが共同研究の新たな種に

通常、学会は専門に特化した研究者が集まるため、分野を越えた研究交流は限定されたものにならざるを得ません。領域の異なる研究者が一堂に会して交流できる機会は少なく、そのため本リトリートは自分の研究室に閉じこもってはいない、貴重な場になっています。例えば、異分野の方との交流により、同じ分野の研究者同士では知り得ない新しい技術や実験機器、それらを自分の研究に結びつける方法を知り、研究が進展することも少なくありません。本リトリートをきっかけに、私の研究室でも生理学研究所の方と研究試料の使用の際に協力した経験があり、若手同士の気さくな交流が共同研究の種をつくる機会となっています。

こうした活動の結果、特に基礎と臨床分野の共同研究による多くの論文が本リトリート参加機関から発表され、着実に成果を出しています。また、複数機関の共同研究による研究費の獲得、共著論文も数多く発表されており、所属を越えた研究者間の交流が続いています。さらに、本リトリートは発表・議論を含めすべて英語で行っているため、国際的な交流や共同研究に向けた基礎を築く場にもなっています。実際、若手研究者が他の国際的な活動に積極的に参加する様子が見られるようになっています。

### 地域性を存分に活かしさらなる質の向上を目指す

もともとリトリートは米国発の取り組みで、今では日本全国の大学で開催されています。ただ、基礎と臨床の研究者が集まり、

他の研究機関とも合同で行うスタイルは、本家の米国や日本の各大学においても類を見ず、本リトリートは独自の発展を遂げてきました。その理由としては、本学や日本を代表する研究機関が集中する愛知県の地域性が挙げられます。臨床系の比重が大きい愛知県がんセンター、国立長寿医療研究センター、愛知県心身障害者コロニー、基礎研究に特化した生理学研究所と有力な研究機関が近隣に点在しており、それらを本学が結びつけ本リトリートを主催することにより、基礎にも臨床にも偏らず両者の融合を推進することができました。実際に共同研究を行うことも地理的なメリットは大きく、研究者がフットワーク良く動けることに私自身も魅力を感じています。

この10年間で本研究科や他の研究機関の研究力に影響を与え、外部からも高く評価される本リトリートですが、今後さらなる飛躍を目指すには、研究論文の数だけでなく質の向上を図ることも重要です。地域の研究力を向上させ、未来へ向かって日本の研究をリードしていくためにも、参加形態の工夫、研究分野間の交流促進などプログラム内容を磨いていかなければなりません。今後もこの名古屋で生まれた、基礎と臨床の研究者が一堂に会するリトリート、地域の研究機関合同のリトリートの質を高め、さらなる研究力向上を目指していきます。



OKAWARA, Bisei

総合研究大学院大学大学院生命科学研究所 博士後期課程修了。理学博士。ドイツがん研究センター博士研究員などを経て、現在、名古屋大学大学院医学系研究科准教授。専門分野は神経遺伝情報学。

※1 / グローバルCOEプログラム(GCOE) 世界をリードする創造的な人材の育成機能の抜本的強化と、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を目的とした文部科学省による支援事業。本研究科の「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」は、2008年度のGCOEに採択され5年間の支援を受けた。